【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第１区分
【発行日】平成26年12月18日(2014.12.18)

【公開番号】特開2014-145678(P2014-145678A)
【公開日】平成26年8月14日(2014.8.14)
【年通号数】公開・登録公報2014-043
【出願番号】特願2013-14712(P2013-14712)
【国際特許分類】
Ｇ０１Ｓ　7/03　(2006.01)
Ｂ６０Ｒ　13/00　(2006.01)
Ｇ０１Ｓ　13/93　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０１Ｓ　7/03　Ｍ
Ｂ６０Ｒ　13/00
Ｇ０１Ｓ　13/93　Ｚ

【手続補正書】
【提出日】平成26年10月30日(2014.10.30)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３５】
[銀合金におけるビスマスの合金組成比の最適範囲を特定する実験とその結果]
本発明者等は、図１で示す装飾被膜を構成する層内の銀合金におけるビスマスの合金組成比の最適範囲を特定する実験をおこなった。具体的には、硝酸銀と硝酸ビスマスを混合し、これをアミノアルコール（還元剤）に添加して加熱混合したものを、UFろ過し、配合剤を混合して塗料調合し、スピンコートにて塗工後、80℃で30分間熱処理して装飾被膜を形成した。この際、Bi/Agを種々変化させて種々の装飾被膜を形成している。それぞれの装飾被膜に対して耐候性試験（キセノン試験）を実施した（100W×500MJ/m^2）。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４２】
また、図３は、銀合金におけるビスマスの合金組成比：Bi/Ag(質量%)が0質量%、1.0質量%、2.0質量%のTEM像を示した図である。図中、黒い点は銀合金の微粒子（ナノ粒子）を示している。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４３】
同図より、Bi/Agが0質量%、1.0質量%のケースに比して2.0質量%のケースにおいて、数nmオーダーレベルの微小粒子が存在しないことが確認できる。その結果として、耐候性試験における銀合金の凝集が抑制され、色目変化も抑制されている。